

様式 F - 7 - 1

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成27年度）

1. 機関番号

3	2	6	0	4
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 大妻女子大学
3. 研究種目名 基盤研究(C)（一般） 4. 補助事業期間 平成25年度～平成28年度

5. 課題番号

2	5	3	5	0	8	5	2
---	---	---	---	---	---	---	---

6. 研究課題名 栄養士養成施設卒業生、在校生の健康リスクとBMI、体脂肪率に関する横断・縦断研究

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
5 0 3 7 3 1 6 3	コバヤシ ミナツ 小林 実夏	家政学部	准教授

8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名

9. 研究実績の概要

栄養士経験の有無によって対象者の生活習慣・食習慣、栄養素・食品摂取量を比較した結果、栄養士経験者の方が緑黄色野菜の摂取量が多く、脂肪エネルギー比率、飽和脂肪酸エネルギー比率が低く、インスタント食品、ファストフードの摂取頻度が少ないことを明らかにした（Nutrition & Food Science, 2015; 45(5)）。栄養学の習得が中年期以降の体格に与える影響について明らかにすることを目的に、卒業後の体格変化と中年期の体格を比較した結果、対象者の肥満（BMI 25.0）の者の割合は9.6%であり、2011年国民健康栄養調査の結果（50代女性）の肥満の割合（21.9%）より低いことから、専門的知識の習得により適切な体型が維持できていることを明らかにした（int J Hum Cult stud. 2016）。

青年期（学生時代）に習得した栄養学的知識が中年期以降の食生活や体格、健康へどのような影響を及ぼすかについて、卒業生の食の情報への関心について調査を行うために開発した調査表を対象者224名へ送付し、160名から調査票を回収した（回収率71.4%）。健康に関する調査には、健康尺度であるSF-36を用い、回答からマニュアルに従いコード化およびスコアリングを行った。

一方、栄養士養成施設に在籍する学生を対象に、食品・栄養素摂取量、疲労度、生理不順、イライラ感、うつなどの症状および不定愁訴の症状について調査を行い、身長、体重、体脂肪、筋肉量、基礎代謝量、骨量、ヘモグロビン値、握力等の測定を行った。本年度の調査により延べ500人のデータが集積された。